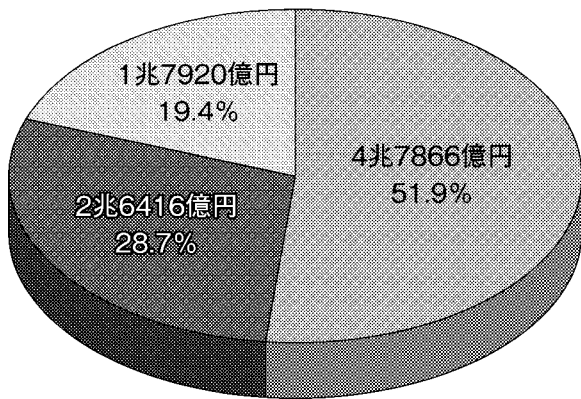


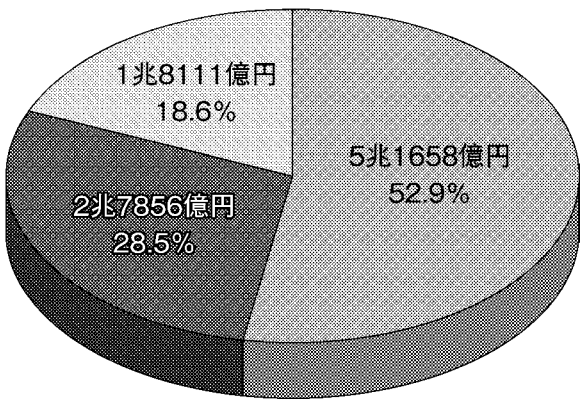
安心・安全の礎を築く 建設産業

主要建設会社40社の受注高実績（単体）

2010年度 売上高総計 9兆2203億円



2011年度 売上高総計 9兆7626億円



建設経済研究所の主要建設会社決算分析（2011年度）
対象の40社

階層	連結売上基準 (3年間平均)	分析対象会社	社数
大手	1兆円超	鹿島、清水建設、大成建設、大林組、竹中工務店	5
準大手	2000億円超	戸田建設、長谷工コーポレーション、西松建設、三井住友建設、五洋建設、前田建設工業、フジタ、熊谷組、東急建設、奥村組、ハザマ	11
中堅	2000億円未満	東亜建設工業、安藤建設、銭高組、浅沼組、鉄建、東洋建設、福田組、大豊建設、飛鳥建設、ナカノフード建設、青木あすなろ建設、ピーエス三菱、東鉄工業、大本組、松井建設、矢作建設工業、名工建設、若築建設、大和小田急建設、不動テトラ、北野建設、大末建設、植木組、徳倉建設	24

受注5年ぶり増加

グローバル展開進む

業績回復

建設経済研究所が準大手・中堅を含む主要建設会社40社（直近3年間に於ける連結売上高平均の上位）を対象にまとめた12年3月期（11年度）決算分析によると、単体の受注高合計は前年度比5・9％増の9兆7626億円、5年ぶりに増加した。リーマン・ショックの影響で同15・6％減となった09年度の9兆4542億円を上回る水準に回復。23社が受注額を伸ばし、うち12社が2ケ

タ増だった。

規模別では大手（連結売上高1兆円超の5社）が同7・9％増の5兆1658億円、準大手（同2000億円超の11社）が同5・5％増の2兆7856億円、中堅（同2000億円未満の24社）が同1・1％増の1兆8111億円。中堅は11年4・9月期まで受注減だったが、下期で増加に転じた。受注シェアは大手が同1・0％増の52・9％、準大手が同0・2％減の28・5％、中堅が同0・8％減の18・6％で、

建設業界は東日本大震災の津波で生じたがれき処理に続いて復興関連工事が動きだし、海外でも日本企業の活発なグローバル展開により繁忙感を強めている。ゼネコン大手4社（上場）の2012年3月期連結決算はそろって売上高を伸ばし、2社は2ケタ成長となった。前期は軒並み前年度比10％超の減収だっただけに対照的だ。だが、欧州債務危機を背景とした海外経済の減速、国内での電力供給の制約など懸念材料もあり、先行きについては不透明感を払拭しきれない状況だ。

増収予想

13年3月期（12年度）の受注高見通しについては大手が同0・2％減の5兆1570億円、準大手が同0・3％増の2兆7905億円を予想。中堅は非公表企業があり増減率だけで同6・1％増。企業規模が大きいほど堅実な見通しを立てる傾向は相変わらずだ。また、11年度の連結売上高合計は前年度下期からの受注回復により完成工事が増え同3・7％増の1兆8305億円だった。09・10年度の2年間、2ケタ減が続いたが、単体受注高と同じく5年ぶりに増加した。規模別では大手が同5・1％増の6兆3398億円、準大手が同6・6％増の3兆3667億円、中堅だけが同4・3％減の2兆1239億円と減少が続いている。12年度の連結売上高も増加に転じた受注工事の進捗により2年連続で伸びる見通し。全体では同3・3％増の12兆2155億円で規模別に見ると、大手が同4・4％増の6兆6200億円、準大手が横ばいの3兆3658億円、中堅が同5・0％増の2兆2297億円を予想している。収益面では、11年度の連結経常利益総計は同3・1％減の1945億円

海外伸長

日本は昨年、震災に続いて歴史的な円高に見舞われた。円高は国内経済に深刻な影響を与えた半面、日本企業のグローバル展開を押し進め、アジア諸国を中心に工場建設ラッシュが続いている。海外建設協会がまとめた11年度の海外建設受注実績は前年度比48・8％増の1兆3503億円。3年ぶりに1兆円台を回復した。リーマン・ショックの影響を強く受けた09年度を底に2年連続で増加。国内製造業の海外生産シフトとともに、新興国の経済成長で都市開発やインフラ整備の仕事も上向きだ。

地域別に見ると、上位からアジアが同40・7％増の9863億円、北米が同20・6％増の1243億円、中東が同4・3倍の1164億円。その他ウエートはまだ大きくないものの、アフリカが同28・6％増の376億円、中南米が同2・1倍の338億円など、全ての地域で伸びている。国別ではシンガポールが同19・5％減の2526億円、タイが同40・1％増の1198億円、ベトナムが同3・1倍の1039億円の順。ベトナムは前年度の7位からベスト3に躍進した。その他、インドネシアが同2・2倍の805億円、インドが同88・3％増の544億円など、やはり日系工場の立地が進む国々の伸びが目立つ。

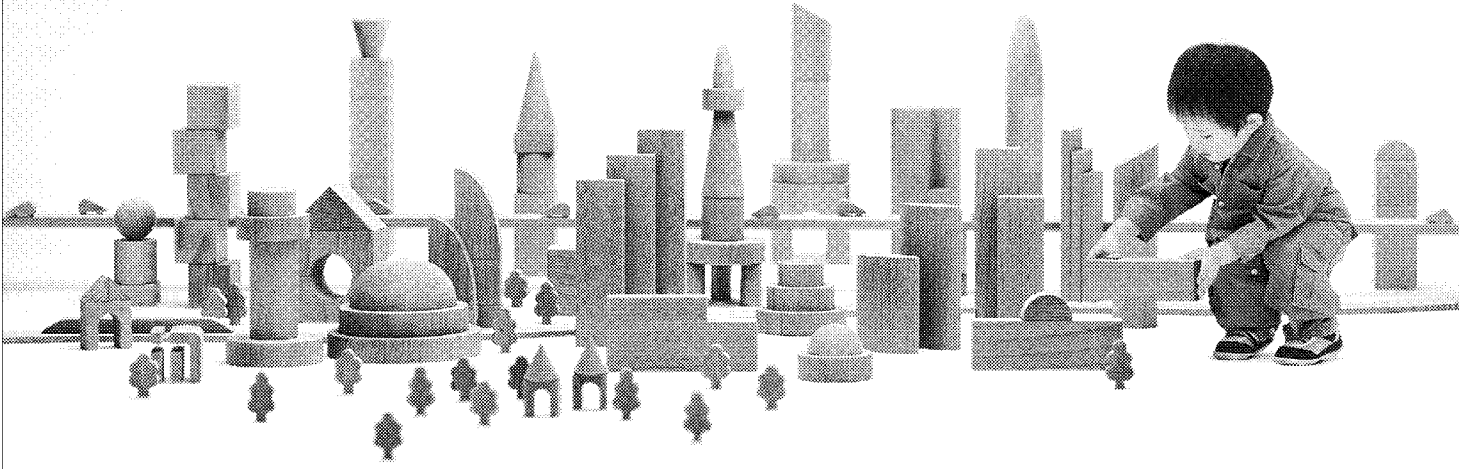
時をつくる ころで創る

子どもたちが大人になっていくように、
街も健やかに育っていくと、
そこで暮らすみんなに幸せが広がります。

わたしたち大林組は、
親が子どもたちに愛情を注ぐように、
ころを込めて、建物や街をつくっています。

みんなの未来を、夢のある時間で満たすために。

想像を、チカラに。



フランス人の小説家、ジュール・ヴェルヌが残したという言葉があります。「人が想像できることは、必ず人が実現できる」
100年以上前に彼が空想したロケットや携帯電話が、世界の常識になっている今日。私たちは、「想像」の可能性を否定することはできません。
いま、私たちが建設するひとつひとつが、地球の上でどんな存在なのか問われる時代。これから築かなければいけないのは、人と地球のいい関係です。100年先、200年先、ずっと先の未来まで。私たちは、想像します。たとえ大変難に思えることでも、やがて世界の常識になる日が来るために。
人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
大林組

www.obayashi.co.jp



大林組